

# 「発信力」を強化して 立体駐車場工業会の意義を高めていく

## 森井 博

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌 発行人

## 新村 高志

公益社団法人立体駐車場工業会 会長  
株式会社IHII 執行役員 グローバル・営業統括本部長

### 【プロフィール】

新村 高志(にいむら たかし)  
1960年神奈川県生まれ。早稲田大学商学部卒業後、1983年石川島播磨重工業株式会社入社(2007年7月1日より株式会社IHIIに商号変更)。約10年のパーキング営業の後、秘書室、エネルギー・プラント事業本部、環境・プラントセクターを経て、2012年営業・グローバル戦略本部総合営業部長。2014年理事、中部支社長。2019年4月より現職。立体駐車場工業会会長は同年5月に就任。趣味は読書(経済小説中心)、散歩、Jリーグ観戦。座右の銘は「土魂商才」

お客様の利便性向上もさることながら、パーキング業界が何より配慮すべきは安全の担保である。業界内の各団体は常にそのことに注力しているわけだが、なかでも近年活発な取り組みを行っているのが、公益社団法人 立体駐車場工業会(以下「工業会」)だ。

直近では、2017年5月にJIS規格化を実現し、2018年からは年1回の総会開催日と同日に「機械式駐車場の安全性確保推進連絡会」を開催。同じ2018年の12月には『機械式駐車設備の適切な維持管理に関する指針 ガイドブック』を発行している。さらに遡って2008年からは全国各地で機械式駐車場の所有者、管理者等を対象にした「機械式駐車場安全講習会」を30回以上にわたって継続開催中だ。事故ゼロを目指し、メーカー、運営管理者の意識を高められる機会や媒体をつくり続けるなど、安全性向上に対する真摯な姿勢を貫いている。

今回の対談では、この5月から工業会の新会長に就任した新村高志氏をゲストに迎えた。石丸寛二前会長の体制を受け継ぎつつ、どのような方向に工業会を導くのか。安全性、信頼性の維持、向上や海外展開、自動運転、ほぼ1年後に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にまつわる駐車場についてなど、幅広い話題について話合った。

(対談収録：2019年7月1日)

## パーキング営業時代の経験が現在の自分の礎になった

**森井** まずは新村さんがこの業界を目指した経緯について教えていただけますか。

**新村** 承知しました。ですが、私のプロフィールの前に森井さんにお話ししたいことがありまして。私、本欄の最終ページの森井さんのプロフィールに

載っている「遍歴」のひとつと同じ経験をしているんですよ。

**森井** ほお、何でしょうか？

**新村** 私もかつて森井さん同様にテニスをしておりまして、中・高・大、さらに社会人になっても時間を見つけて続けておりました。そして私が32歳の時、忘れもしない1993年のゴールドデンウイクでしたが、某所でテニスをしていた時、アキレス腱を断裂してしまったんです。

**森井** おお、そうだったんですか。私もアキレス腱を断裂したことを確かにプロフィール欄に載せていますね。

**新村** ところで私、テニスの他にサッカー観戦も趣味でしてね。そのアキレス腱を切ってしまった1993年は、Jリーグが開幕した年でした。5月15日に行われた記念すべき開幕戦、ヴェルディ川崎対横浜マリノス戦が国立競技場で行われるということで、チケットを入手して歴史的な一戦の目撃者になることを楽しみにしていたのですが…。

**森井** スタジアムには行けなかったと。  
**新村** ええ。病院のベッドの上で泣く泣くTV観戦しておりました…さて、本流のプロフィールに戻しましょう(笑)。大学のゼミの公共経済学理論で学んだインフラがいかに重要で、日本経済の発展をどのように支えてきたかといった歴史に感銘を受けまして、就職活動では発電所、プラントなどインフラ系企業を中心に回ったのです。そして最初に内定をいただいたIHIに入社しました。

**森井** 大学での学びを活かせる環境に進めたのは幸運でしたね。

**新村** はい。入社後は営業を志望していきまして、1年間の工場実習の後、パーキング営業部に配属されました。

**森井** 1983年入社という

ことは、バブル景気に向かう頃ですよ。パーキング営業部は多忙を極めたのではないですか。

**新村** おっしゃるとおりです。当時、刻々と駐車場の料金は上昇していたので、一日も早く設置したいと考えるオーナーさんが多かった。したがって納期までのスケジュールがかなりタイトになるケースが多く、日々必死に取り組んでおりました。そこで10年を過ごし、最後の10年目にアキレス腱を断裂したのですが(笑)。

**森井** その後、秘書室を経て、就活時に興味を持たれていたプラントの営業部に異動されたのですね。

**新村** はい。LNGタンクの営業などに従事しました。でも、振り返りますと、入社後10年間にわたってパーキング営業をさせていただいたのは、自分にとって本当に良かったと思いますね。

**森井** どのような点が良かったですか。

**新村** 時代的にバブル前後にあたっており、成功体験と失敗体験の両方を数多く経験できたことがビジネスマンとしての成長を促してくれたと思います。また、入社したてではありましたが、任せてもらえる仕事の領域が広く、責任も大きかったため、非常にやりがいを感じていました。もちろん個人の成果ではなく、お客さま、上司、先輩、同僚など多くの方々あってこそだったのは言うまでもありませんが、スピード感があり、充実した日々を過ごすことができた



2019年5月、工業会の定期総会意見交換会で挨拶する新村氏



思います。

**森井** 当時のパーキング営業の経験は、今後、工業会の会長としての仕事に活かされそうですね。

**新村** はい。石丸寛二前会長の体制において、2年間私は副会長をさせていただきましたが、今回は会長を拝命し、重責を担ったと感じています。

## 「一員で良かった」「入りたい」 そう感じてもらえる工業会に

**森井** 就任から2ヵ月程経ちましたが、改めて新会長としての抱負を教えてくださいいただけますか。

**新村** 工業会が発足して既に半世紀以上が経過しています。立体駐車場業界の取りまとめ役であることを再認識し、伝統と精神をつないでいくことが自分に

与えられた使命であると考えています。

**森井** 会員各社に対してはどんな思いがありますか。

**新村** 団体に加わっていただくからには何らかのメリットを享受してもらうのが理想だと思います。ですから、私としては「工業会の一員で良かった」、さらに言えば「工業会に入りたい」と思ってもらえるような場をつくりたいと考えています。同時に、所管官庁である国土交通省ともこれまで以上に連携を強化していくつもりです。

**森井** パーキング業界に数ある団体の中でも、工業会は特に国土交通省とのつながりが深いのではないのでしょうか。というのは、機械式駐車場というものが社会に登場し、発展していった時代は、日本のモータリゼーションが進展した時期とほぼ同時期だからです。

**新村** ありがとうございます。そしてもうひとつ会長として訴求したいのが「工業会の発信力を強化する」ことです。対象としては、会員各社はもちろん、国土交通省、お客様、駐車場オーナー、運営管理会社、その他の関係者など工業会に関連するすべての方々です。

**森井** なるほど。これまでも工業会は多くの発信をされてきましたよね。近年では、JIS規格化実現、機械式駐車場の安全性確保推進連絡会、『機械式駐車設備の適切な維持管理に関する指針 ガイドブック』発行、そして全国各地での所有者、管理者等を対象にした「機械式駐車場安全

講習会」など、実に多くの取り組みがあります。

**新村** ありがとうございます。それらは今後もできるだけ継続する一方、ルーチンだけにとどまらない新しい試みも増やしていきたいと専務理事とも話をしております。

**森井** それは良いですね。どんなことが発信されるのか大いに期待しています。ところで現在、ご存じのとおり、工業会のほか、全日本駐車協会、日本自走式駐車場工業会、日本パーキングビジネス協会(JPB)のパーキング業界主要4団体がそれぞれ保有している駐車場関連データを統合した「便覧」の作成を進めています。作業は大詰めを迎えていて、今年9月には公表される予定です。これは駐車場関連団体が協同する一大事業です。データの統合もさることながら、4団体が国土交通省も交えて情報共有できる場にもなるということで、非常に意義深い取り組みであると考えています。この場を借りて工業会のご協力に感謝を申し上げます。

**新村** こちらこそ、引き続きよろしくお願い致します。



機械式立体駐車場の安全な使用を支援するため、ポスター、チラシなどを作成して配布している。この絵柄はシールとして作成したもの



2018年12月に制作した『機械式駐車設備の適切な維持管理に関する指針 ガイドブック』

## 現地の技術状況を的確にとらえ 実情に応じた海外展開をすべき

**森井** さて、工業会は、かねてより東南アジアを中心とした海外展開も進めていらっしゃいます。昨年には国土交通省の担当者と、インドネシア、マレーシアを視察されたとうかがっています。何か収穫はありましたか。

**新村** 都市部において慢性的な渋滞が見られ、高いニーズがあることを確認しました。日本以外のメーカーが製造した機械式駐車場も多く見られましたが、クオリティとしてはさもありなん、という感じでした。もっとも、彼らの国々には厳しい法規制がないのですから問題があるわけがありません。我々としては高い品質やアフターメンテナンスの確かさなどで他国メーカーと差別化し、提案していくことが大切だと思います。

**森井** そのとおりですね。

**新村** ただ、東南アジア諸国の交通渋滞、駐車場事情を指して、戦後～高度経済成長期の日本であるといった見方はステレオタイプ的なのかな、と実感しました。というのは、平面駐車場のIoT活用が思ったより進んでいることが分かったからです。東南アジアへの機械式駐車場の輸出は継続していくべきですが、現地の技術状況を客観的にとらえ、実情に応じた提案をしていくべきだと思います。

**森井** 私は2017年に、JPBの海外視察でオーストラリアのシドニー、ブリスベンへ行ったところ、スマホで手軽に駐車場予約や課金ができることに驚きました。「日本はオーストラリアより20年遅れている」と痛感しましたよ。

**新村** なるほど。会員各社、メーカーなどは、やはり第一に自社の開発、利益に目を向けてしまいがちですが、そのよ

うに進化した海外の事情を見ると足並みを揃え、まとまっていく必要がありますね。会員各社と話し合い、方向性を打ち出していければと思います。

## 自動運転普及に向けて 立駐ができることを訴求

**森井** 続いては自動運転に関してお聞きしたいと思います。去る6月には、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）が、東京の臨海部で2019年度～2022年度に実証実験を行うことを公表するなど、国内における自動運転の機運はさらに加速しています。かねてから駐車場は、不確定要素の多い公道と異なり、その限定された空間故に自動運転が導入されやすいことが指摘されてきました。新村さんはどんな考えをお持ちですか。

**新村** 自動運転への対応は、まずは各社個別に始めていると認識しています。実際、IHIグループでもCASE<sup>\*1</sup>に対応する実証実験を行っています。また、よく言われるのが「機械式駐車場は自動パーキングに適した環境である」ということです。確かに入出庫口が基



本的に1ヵ所なので、その点では実現しやすいのかもしれませんが。自動運転実現の主役は自動車メーカーでしょうが、我々も「自動車を駐める場所＝駐車場を生業とする者」の団体として「こんなことが実現できる」とどんどん提案していくべき立場にあります。工業会として会員各社の足並みを揃え、先ほど申し上げたように有意義な「発信」をしたいと考えています。

**森井** 私は以前から機械式駐車場の前に前面空地をつくり、そこまで自動運転で車が移動してきて、後は駐車場からドリーのような機械で車両を引きこ



慢性的な交通渋滞に悩む東南アジア諸国（写真はインドネシア・ジャカルタ）は、有望な市場に。現地の状況をつぶさに調査した上で適切な提案をすべきと新村氏

\*1 CASE（「Connected：コネクティッド化」「Autonomous：自動運転化」「Shared/Service：シェア/サービス化」「Electric：電動化」の頭文字を取った用語）

むシステムをつくることができれば、と  
考えています。無人で出入庫すれば、機  
械式駐車場内における人身事故発生の  
恐れは激減するでしょう。

**新村** そうですね。機械の中に人間が  
入りさえしなければ事故ゼロの達成は  
より現実味を帯びてきます。

**森井** 事故をなくすためには、機械式  
駐車場の保守・メンテナンス業務も非  
常に大切です。それを支援するための  
IoTはやはり積極的に活用されている  
のですよね。

**新村** はい、今では欠かせない要素に  
なっています。

**森井** 一時期、国土交通省が開発を勧  
めていた超小型モビリティの駐車を想  
定したサイズのパレットなどはいかが  
ですか。

**新村** 超小型モビリティと言うと…？

**森井** 定義は、自動車よりコンパクト  
で小回りが利き、環境性能に優れ、地域  
の手軽な移動の足となる1～2人乗り  
程度の車両というものでした。現在は  
目立った動きはないようですが、それ  
でもコンビニエンスストアなどでは今  
も宅配に使っていてよく見かけますよ。  
あの超小型モビリティは電気自動車で  
すので、CO2削減はもちろん、観光や  
地域振興、そして昨今問題になっている  
高齢者の自動車運転の代替移動手段と  
しても期待できるのではないかと考え  
ています。

**新村** なるほど。車両のサイズに合わ

せた駐車スペースづくりは我々がまず  
担うべきタスクですね。私がパーキン  
グ営業をしていた時代は5ナンバーの車  
両が主な対象でしたが、以降は一部車  
両の大型化が進み、機械式駐車場も変  
遷してきました。その超小型モビリテ  
ィ用に、例えば既存パレットに超小型車を  
2台停められるようにするなど、考える  
べき時が来るかもしれませんね。

## ポスト2020に向けて 駐車場予約システムの普及を

**森井** では最後の話題として、ほぼ  
1年後に迫った東京2020オリンピック・  
パラリンピック競技大会に関してご意  
見を聞かせてください。5月末、国土  
交通省が来年の大会期間中、会場周辺  
など重点的に交通を抑制するエリアで、  
駐車場探しによる渋滞緩和のための予  
約システムの導入やパークアンドライ  
ドの促進などの対策を講じていること  
はご存じだと思います。国土交通省は、  
東京2020オリンピック・パラリンピ  
ック競技大会における駐車場対策を官民  
連携で推進するため「東京2020オリ  
ンピック・パラリンピック競技大会に関

する駐車場対策協議会」を設置しまし  
た。今年夏には、テストイベントなど  
の対策実施に向けた検討や調整をする  
そうです。今後、五輪競技会場周辺を  
中心とした駐車場の利用方法に注目が  
集まると思うのですが、新村さんはど  
うお考えですか。

**新村** やはりカギは予約制だと思いま  
す。予め駐車する場所が確保されてい  
れば、駐車場探しのうろつきが減って、  
渋滞削減に大きな効果が期待できま  
すからね。そして予約制は東京2020オリ  
ンピック・パラリンピック競技大会期  
間中もさることながら、大会終了後も継  
続して普及させていくべきものだと考  
えています。

**森井** そうですね。現在、少しずつ増  
えてはいますが、さらに加速させてい  
かなければなりませんね。

**新村** ところで駐車場の話題から少し  
離れるのですが、IHIがある豊洲は東京  
2020オリンピック・パラリンピック競  
技大会の競技場や関連施設が集積する  
東京ベイエリアに隣接しています。そ  
れを受けて国や東京都は「2020TDM<sup>※</sup>  
2推進プロジェクト」を発足させました。  
東京都は今年の7/22～8/2をトライア  
ル期間として、豊洲地区にある各企業に



① 将来普及が進む可能性もある超小型モビリティ。この車体に適したサイズの立駐開発も工業会の課題になるか？  
② 対談を行った豊洲IHIビル高層階から撮影した豊洲エリア。東京2020大会に向けてTDMが実施される。駐車場の  
予約制を推進していく上でパーキング業界にとっても注目すべき場所になりそう

※2 Travel Demand Management (交通需要マネジメント)

TDMへの取り組みを要請するそうです  
(編集部注：対談収録は7/1)。

**森井** するとIHIグループに勤務される方は豊洲、つまり職場に来ることを制限されると？

**新村** はい。この期間中はできるだけある一定の時間帯の出退勤を避けて、在宅勤務をしたり、フレックス制度を活用したりしてください、ということだそうです。こうした取り組みが働き方改革をさらに推進していくのでしょうか。

**森井** そうした大規模なTDMのトライアルなどの話を聞くと、いよいよ東京2020大会が迫ってきているのだ、と改めて実感します。

**新村** ちなみにオリンピックが行われる来年の7/24～8/9には選手が約1万1,000人、メディアが約2万5,000人、観客が約780万人も集まる予測があるそうです。また、8/25～9/6に行われるパラリンピックもスケールは大きく、選手約4,400人、メディア約9,500人、観客は約230万人だそうですよ。

**森井** オリンピック・パラリンピック合わせて1,000万人を超えるわけですね。



豊洲IHIビルの応接室で対談。発行人のIHI時代の思い出話にも花が咲き、対談は大いに盛り上がった

東京の人口に匹敵するのですからすごい数字だと思います。現在は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を成功させるための取り組みという位置づけですが、観光立国を目指す我が国は、2020年以降も多くの訪日客を呼び寄せるための観光地整備やスポーツイベント、博覧会などの開催を進めていくはずで。その点で言えば、渋滞緩和は将来的にずっと考えていかなければならない課

題と言えます。パーキング業界全体で取り組んでいきましょう。

**新村** おっしゃるとおりです。今後ともよろしく願い致します。

**森井** こちらこそよろしく願い致します。本日は機械式駐車場の安全性、信頼性の維持・向上から海外展開、自動運転など幅広い話題についてお話しをうかがい、充実した時間となりました。誠にありがとうございました。 **PP**

【パーキングプレス 発行人】 **森井 博** のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京京橋八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男声合唱団 団員
- サイカパーキング(株)、日本駐車場救急サービス(株)、モーリスコーポレーション(株) 夫々会長

**【略歴】** 1938年(昭和13年)宮崎県延岡市生れ80歳。  
1957年(昭和32年)石川県立金沢泉丘高校卒  
1961年(昭和36年)東京商船大学(現東京海洋大学)卒  
1961～1979年 石川島播磨重工業(現：IHI)  
1979～1991年 東芝  
1991年～ 現職

**【趣味】** 現在：ゴルフ・車・自転車・歌・仕事  
過去：水泳・野球・陸上競技・テニス

**【遍歴】** ゴルフ：毎週1回ホームコースでラウンド、週1～2回練習場通い。  
車：毎日通勤で運転。中古車3台を大切に乗り廻す。  
自転車：数台保有するも年齢を考え余り乗らない。  
歌：六本木男声合唱団で毎週1回練習に励む。  
仕事：健康のため平日は毎日9：00～17：00出勤。  
水泳：小学校に入る前から泳ぎは得意。  
野球：中学生までは本気でプロになるつもりであった。  
陸上競技：高校時代 短距離、やり投げ、インターハイ2回出場。  
テニス：元デブ選手のコーチでかなりの腕前(?)になるも、45歳時アキレス腱断裂で断念。

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

